



明化の教育

12月号 (第517号)

令和5年11月30日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

思いを「カタチ」に ～拍手の力～

校長 熊倉 勝



6年生の「Paradise Has No Border」は、一人一人の力が活かされた圧巻の演奏でした。6年生は、憧れの存在です。

11月17日の音楽会（児童鑑賞日）が終わり、校長室に戻って子供たちの頑張る姿を思い返し、余韻に浸っていた時、1年生の教室の方から拍手の音が聞こえてきました。校長室から出てみると、1年生が体育館から仮設校舎に戻ってきた5年生を拍手で迎えていたのです。自分たちの椅子を体育館から教室へ運んでくれた感謝の気持ちを表したかったとのことでした。その後、翌日の会場準備を終えて戻ってきた6年生にも同様の拍手を送っていました。そこには、何とも言えぬ温かな空気が流れていました。5、6年生は、音楽会で頑張った後にもらった拍手により、達成感を

さらに強めたことでしょうか。拍手を送られた側、拍手を送った側、さらにはその様子を見ていた側、その空間にいた全ての人が心地よさを感じた瞬間でした。5、6年生にとっては、かけがえのない贈り物になったに違いありません。

今年度の音楽会は、全校の子供たちが体育館に集まり、全ての学年の合唱・合奏を聴くことができました。このような活動は、4年ぶりのことです。互いの演奏を聴き合い、一人一人の頑張りを全校で共有できたことは、大きな収穫でした。よく“音楽は世界共通の言葉”と言われるように、音楽を通じて心をつなぐことができました。18日の保護者鑑賞日には、人数制限なしとしたことで、多くの保護者、ご来賓の皆様にご来場いただきました。子供たちは、自分の頑張る姿を大人に見ていただくことが大きな励みとなります。児童鑑賞日以上に一人一人の思いがしっかり届いていたと思います。各学年の演奏が終わった後はもちろんですが、6年生の演奏が終わった後の鳴りやまない拍手に私自身感動しました。皆様から送られた拍手は、子供たちの大きな達成感、満足感につながっています。感謝の一言に尽きます。このような大人や友達に拍手を送られるという心地よさを感じることで、子供たちの心を大きく育てていくと思っています。

拍手には、大きな力があります。人は、どんな時に拍手を送るのでしょうか。共感したり、感謝の気持ちを表したりするときだと思います。その拍手には、「頑張った」「ありがとう」「おめでとう」というメッセージが込められています。言葉に表さなくても、拍手をすることで相手に自分の気持ちを伝えることができる。素晴らしいことです。「思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える。その気持ちをカタチに」という言葉があります。拍手をはじめとして、子供たちが思いを「カタチ」にして表していくことで、みんなの心が通じ合う、穏やかで温かみのある学校作りにつなげていきたいと考えます。

カレンダーも残すところあと1枚となりました。本年も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。